

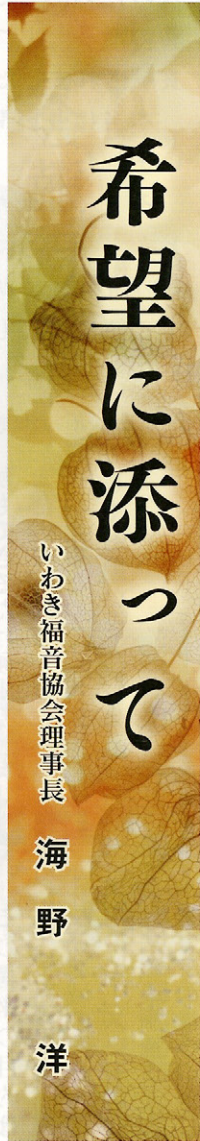


社会福祉法人いわき福音協会

会 報

第16号
2009.10.31

発行責任：いわき福音協会広報委員会 ☎0246-23-1903
住 所：福島県いわき市平上平窪字羽黒40-44



ここ数年、揺れに揺れている国の福祉施策が、いつになつたら落ち着いてくれるのか、先が見えないだけに関係者の溜め息は大きい。特に、利用者の不安げな凝視に会うと、つい目をそらしてしまう。

サービス事業者との対等を行うたい、従来の仕組みであった措置制度を改め、利用者自身がサービスを選択し事業者との直接契約とした支援費制度は、ご承知のように財政上あつと言つ間に破綻してしまつた。

その後、施策の抜本的な改革と称して障害者自立支援法ができた。

様々な問題があつたにしても、これでやつと安定化に向かうと安堵したのも束の間、政権交替によつてその見直しが進められていく。こうした見直しは、ぜひとも障害を持つ方の生きる意欲を起すものであつて欲しいと願つている。

さて私達にしても、地域に生活の場を置く取組みを進めている。グループホームは、その選択肢の一つとして選ばれており、現在、二十八か所、

利用者も一四一名の方が、そこを生活の拠点として暮らしている。

こうした移行推進が、施策や制度化によつて進めてはいるが、それがすべての動機と思われするのは本意である。

確かに、障がい者への社会的自立について、施策が次々と打ち出され、生活をする上での支援が着実に図られて、その方向に添うことは大切だがそのこと、私達が忘れてならないことは、長い間、利用者の生きることに、根源的な思いに目を背けてきたことである。夢や希望にも正面きつて問い掛けもせず、生涯をこうした場に居続けることの不自然さにも沈黙を守つた。

以前、障害度の最も重い介護施設に関わりがあつた。ここでは、生きる上で全てに依存する生活を余儀なくされている方々ばかりである。よもや地域生活などに意欲を持つなど想像もせず、そうした視点はゼロに等しかった。知的に障害がある方にしても、働く能力や範囲は限られていると頭からタガをはめていた。

しかし関わるうちに、この環境から抜け出したいとする彼等の思いは強烈であつた。表面の様子に囚われ、彼等にその可能性はないと決め付け、或いは、挑戦しにくいのは社会環境のせいとして、彼等を黙らせる材料は幾らでもあつた。

さらに深い反省は、こうした利用者への思いや希望に気付きながら避けてきたことである。

幸い今日の自立支援法、彼等の願いにやつと応えられるようになった。しかし一方で、依然として

施設を必要とし希望せざるを得ない方も多く、また現実に施設でしか果たし得ない役割もある。

福祉の世界に二者択一の論理はあり得ず、一人一人に目を向けてこそその働きである。それでも自らの人生をつくれたいこともある。そのときこそ、あらゆる知恵や情報を集め、支援する、それがこの法人としての大切な役割ではないかと思つている。



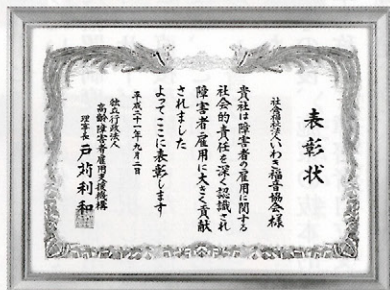
『南会津町館岩たかつえ地区の蕎麦畑』(H21.9)

障害者雇用優良事業所として
全国表彰を受けました



去る九月二日東京において、障害者優良事業所等全国表彰式が執り行われ当法人から海野理事長が出席しました。式では外添厚生労働大臣をはじめ関係機関の方々のご臨席の中、独立行政法人高齢・障害者雇用支援機構理事長より、全国障害者雇用優良事業所として表彰を受けました。現在、当法人では障害者雇

用率は12・73%となっていて二十四名の障害者の方々が福祉事業の向上のため一生懸命働いています。この受賞を励みとして今後もさらなる障害者の福祉のために努力していきたいと思っています。推薦していただいた関係機関の皆様誠にありがとうございました。



ありがとうございました

23年間という長い間理事・評議員の任に当たられていた大内弘様が平成21年5月31日をもって退任されました。当法人のため尽力され、又はまぎく荘の所長としても施設の発展に貢献されました。

本当に長い間ありがとうございました。

そして、新たに理事・評議員として吉原賢二様が平成21年10月1日付で就任されましたのでご紹介いたします。



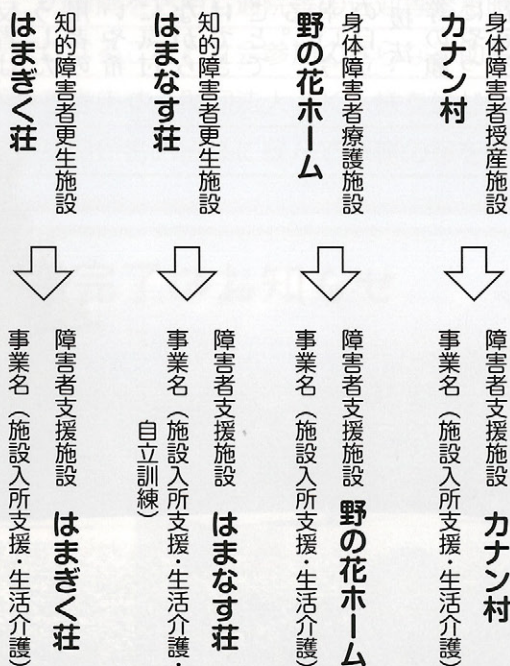
東 北 大 学
名 誉 教 授
吉 原 賢 二

気候温暖ないわきに仙台から移住して五年。少しは地元貢献できるようになりたいと思いましたが、健康上の問題もあり、控え目な方がよいと考えていました。このたび思いがけなく、理事にということでお引受けすることになりました。友人から大河内先生のことを聞いておりましたので、その播かれた種から生じた実りの施設群に関わることは光栄なことに存じます。私より先に長男康がお世話になっており、ありがたいことです。昔の旧制高等学校で医学系コースに進みながら、結局理学部化学に転進してしまつた私ですが、長男は弟が予防接種事故で障害者になつてしまつたために、医師になる志を立て、初志を貫きました。いわきの地に根を生やして働くつもりの子にうまれたいと思つています。まだ不慣れの仕事なので、皆様よろしくお願いいたします。

障害者自立支援法新体系へ移行!!

今年四月一日付でカナン村、野の花ホーム、はまなす荘はまぎく荘が左記の通り新体系に移行しました。

現在の施設・事業名



移行後の施設・事業名

パソコン講座始まりました

この度、福島県立浜高等技術専門学校より平成二十一年度「パソコン基礎科」を当法人に委託が許可され、十月十五日〜来年一月十四日までの三カ月間「光の家」を会場として開催致しております。

この講座の目的は「障がい者の能力、適性及び地域の障がい者雇用のニーズに対応した公共職業訓練」です。この講座の目的は「障がい者の能力、適性及び地域の障がい者雇用のニーズに対応した公共職業訓練」です。この講座の目的は「障がい者の能力、適性及び地域の障がい者雇用のニーズに対応した公共職業訓練」です。



開 講 式

平成20年度苦情受付報告

- (1) 苦情件数 なし
- (2) 苦情に類する意見、要望等の件数

説明・情報不足	職員の態度・対応	事業所の対応	サービスの内容・質
12	31	48	32
設備・環境	生活上のトラブル他	処遇上の希望・要望	合計
14	50	57	244

年々苦情件数が減少してきたことは周知の事実ですが、とうとう平成二十年度は一件の苦情もありませんでした。苦情が表に出てこない理由については様々なことが言われてきましたが、検証して分かってきたことは必ずしも活動が低調とか熱心さを欠くといった

苦情解決委員会報告



理由では説明が難しいということでは。何故かと言うと、苦情の激減とは裏腹に苦情に類する意見要望は増加傾向にあり、毎回多数の件数が報告されているからです。苦情解決制度を運用し始めた頃と現在とを比較してみると、同じ苦情システムにあってその内容や処理の仕方が大分変わってきたことに注目しなければなりません。

発足当初よく見られた職員と利用者間の対立軸を中心とした苦情が徐々に意見要望中心の苦情に移行したことで、利用者サイドからは身近な問題や課題を質す使い勝手の良いツールとして理解されるようになりました。一方施設(職員)サイドでは、利用者の日頃の不満を緩和し利用者処遇やサービスの向上に繋がる仕組みとして必要不可欠であるとの認識が広まりました。また、この過程で特に施設(職員)の苦情への対応がスマートになりレベルアップしたことも、問題化する前に即応し解決を図れるようになった要因ではないかと思えます。

善し悪しは別として双方が不毛な感情的対立より実利を取るべく行動するようになってきたこと、これこそ苦情解決システムが成熟し仕組みとして機能し始めた証しと言えるのではないのでしょうか。

障害者支援施設(旧身体障害者授産施設) カナン村

新体系に移行して

昭和四十八年に身体障害者授産施設として開所したカナン村ですが、今年の四月より新たに「指定障害者支援施設」として生まれ変わりました。今までは作業を中心とした生活でしたが、現在では介助入浴、体操、歩行訓練、創作活動を中心とした生活になりました。また、生産活動として、今までと同じ企業から仕事の委託を受けて作業も行ない、利用者さん一人一人の趣向や能力に合った生活が送れるよう、職員一丸となり努力しているところです。



創作活動の様子

さて、その中で今回は創作活動についてご紹介したいと思います。創作活動は週に二回、カナン村内の訓練室や野外に外出して行なっています。

おります。内容はカラオケ、パズル、絵画、手芸、写真と多岐に渡り、毎回の活動を利用者さん達もとても楽しみにしているようです。「いきなり創作活動と言われても…」と戸惑っていた利用者の方が、熱心にパズルや塗り絵に興じている姿を見ると、今まで知らなかった利用者さんの一面が垣間見えるようで、驚きや新たな可能性を感じます。

新型インフルエンザ発生拡大に伴うカナン・野の花祭中止のお知らせ

新型インフルエンザの感染拡大が懸念される状況であることをうけて、十月十日(土)に予定しておりましたカナン・野の花祭を中止とさせていただきます。楽しみにされていた皆様、参加の準備を進められていた皆様には、誠に申し訳ございませんが、何とぞご了承の程よろしくお願い申し上げます。

福祉体験学習に

来て頂いた皆さん

- 平商業高等学校
- 磐城校が丘高等学校
- 磐城高等学校
- 玉川中学校
- 中央台南中学校

(敬称略)

生産活動や創作活動のお手伝いをして頂きありがとうございました。

肢体不自由児施設 重症心身障害児施設 福島整肢療護園

障害児における「食育」の必要性

管理栄養士 加藤すみ子

「食育」という言葉を私が初めて聞いたのは十五年前でしたが、平成十七年の「食育基本法」制定により、今ではすっかり定着したように思います。栄養士会では、食育とは「食べることの意味を理解し、一人一人が自立的に食生活を営む力を育てることや、それを実現しやすい食環境づくり、それらを支援・推進するネットワークづくり」と考えています。

今回は、りょうご園での「食育」をご紹介したいと思います。その前にちょっと気になった外来での栄養相談の例を紹介します。一つは、肥満です。子供にせがまれるままに食べさせていたら太ってしまったというものでした。もう一つは、痩せの例です。物が食べにくくなった為、食べやすい物ばかり食べていたら痩せてしまったというものです。聞き取りの結果、必要栄養量の七割程度しか摂れていなかった事がわかりました。どちらも、ご本人やご家族の理解を頂き、現在経過をみている所です。

これらは代表的な例ですが、食事は身体づくりのベースになるもので、頭で食べる事を時折チェックする必要があります。りょうご園を訪れるお子さん達

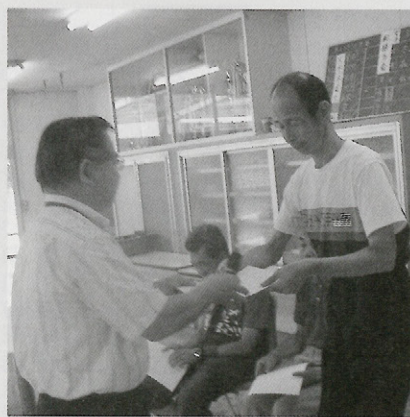
は、何らかの障害を持った上に成長期のお子さん達です。食べたい物や食べやすい物を、食べたい時に、食べただけ食べている(食べさせている)と栄養障害を引き起こす可能性があります。なぜ食べるのか?「何を食べればいいのか?」「いつ食べるのか?」「どこで誰と食べるのか?」「どう食べるのか?」これは、子供に限らず全ての人間が「食べる」という行為をする上で必要な知識と言えますが、障害を持った子供達には、もっともつと食べる事に気をつけて欲しいと思っています。りょうご園では、この夏、肢体不自由児病棟の子供達に「なぜ食べるのか?」という話から食育をスタートし、小グループでの「おやつ作り」を実施しました。そこには、真剣に話を聞く姿や、作ったクッキーを職員や参加出来なかった子供達に分けてあげるといった微笑ましい姿がありました。秋には、重症心身障害児病棟の子供達と、春に植えたさつま芋を収穫し「おやつ作り」をする予定です。どちらの活動も、保育士さんや看護師さん達と協力し、楽しみの中から少しずつ食事の大切さを伝えていきたいと思っています。

障害者支援施設(旧知的障害者入所更生施設) はまなす荘

昭和四十八年に定員百名で開所したはまなす荘は、平成二十一年度より二十二年度事業として、定員五十名の施設へと全面的改築工事を実施してまいります。

また、私達は平成十一年から自活訓練を実施し、本人達の望む地域生活移行を進めてきました。今年度に入ってから九月現在で十二名の方が地域生活移行し、同法人の「ふくいん」のバックアップを受けて地域のグループホーム・ケアホームで生活しており、日中活動の場としては主に同法人の「つばさ」・「かがやき」の協力を得て実習や就職の場として活動しています。

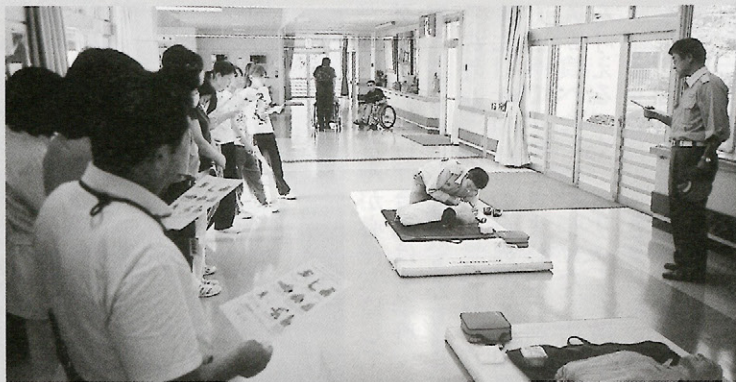
はまなす荘に入所している人数は現在五十三名となっております。はまなす荘では、「ふくいん」の協力を得て、職員が一ヶ月・三ヶ月・半年・一年後と計四回のアフターケアを実施しているのですが、地域生活移行



していった利用者さんは、皆口をそろえて「楽しい!」「はまなす荘には戻りたくない!」と嬉しそうな表情で話をします。そんな利用者さん達の笑顔や言葉は嬉しい反面、少し寂しいような思いもあります。利用者さん本位の生活支援ですので、今後も利用者さんの希望(ニーズ)に添った支援をできるように、日々努力していききたいと思います。



障害者支援施設(旧身体障害者療護施設) 野の花ホーム



救急知識等普及講習会

リスクマネジメント委員会

皆さんは「リスクマネジメント」という言葉をよく耳にするのではないのでしょうか。福祉サービスを取り巻く環境が急激に変化するなか、利用者の事故を未然に防ぐ「リスクマネジメント」への取組はもはや不可欠となっております。今年度より野の花ホームでも形を変えて委員会を立ち上げ取り組むことになりました。多くの施設では既にリスクマネ

ジメントに対して取り組んでいると思いますが、効果的な事故予防策に結びつかずに行き詰まっていたり、取り組んでみたものの継続しないという話もよく聞かれます。現在は、月一回、各部署のリスクマネジメント委員が集まり、事故報告、ヒヤリハットの検証、各部署での問題提起などを主に話し合っています。利用者個々の生活全般にわたり共通の認識のもと支援していければと思います。やはり他の施設同様、なかなか結びつかなかったり、行き詰まったりするとは思いますが最終的に野の花ホームが提供するサービスの「質」の底上げを目指しています。



避難訓練

生活介護事業所 光の家

障害者自立支援法の施行により生活介護事業所光の家として再スタートを切って、この十月で三年となります。

この間光の家にはふたつの変化が見られました。ひとつ目は利用者の障がい程度の重度化、ふたつ目は若年齢の利用者の増加です。

ひとつ目の障がい程度の重度化ですが、三年前の平成十八年十月現在の平均障害程度区分は4.4で、障害程度区分5ないしは6の方の割合が四十%強であったのに対し、平成二十年度末時点ではそれぞれ4.6、六十%となっております。

ふたつ目の若年齢の利用者の増加ですが、平養護学校からの卒業生を受け入れるケースが増えたことによるものです。受け入れた卒業生らは重度障がいを抱えていることが多く、先にあげた変化の要因のひとつとなっております。

このような急激な変化に伴い、これまで提供してきたサービス内容ではすべての利用者を受け止めきれなくなってきました。これまでは余暇活動の時間に、創作活動・リハビリ・パソコン・カラオケ・散歩等をおこなってきましたが、さらにバリエーションを増やす必要性が出てきました。



写真1 ミュージックケア

そのような

中、今年の五月と九月、講師の先生に来ていただき、ミュージックケア体験を実施しました(写真1)。大きな音で流れる音楽に合わせて、鳴子を鳴らしたり、手や足を動かしたり、また、体の動かせない方はシャボン玉の飛ばし方や大きな布の動き、布の動きから吹いてくる風など、積極的に参加する方もあれば、控えめな方もありました。皆さんのいきいきとしている姿が印象的でした。



写真2 玉入れ大会

また、一ヶ月に一度実施しているスポーツレクリエーションの一環として、曜日対抗の玉入れ大会を六月末に実施しました(写真2)。玉をかごにかけて投げ入れる方、玉の飛んでいる様子を眺めて楽しむ方、また玉をつかんで感触を楽しむ方などそれぞれでしたが、普段とは違う充実感を感じられるような一週間であつたと思います。

来春以降も養護学校卒業生の受け入れを予定しており、利用者の更なる重度化が予想されます。光の家では将来的にはスノーブレンの理念を取り入れた環境作りも検討しています。

ひとりひとりに充実した時間を過ごしていただくため、今後もニーズの変化に敏感にサービスを模索していく必要があると思います。

障害者支援施設(旧知的障害者入所更生施設) はまぎく荘

グループ旅行男子班編



利用者皆さんが心待ちにしているグループ旅行、今年は男子班・女子班・日帰り班の三編成となりました。そのなかで男子班は九月十六日、十七日一泊二日の日程で、上山温泉方面へかけてきました。利用者さんが食べたい物で挙げた「肉」これを叶えるべく、ボリューム満点のステーキを昼食で頂きました。高畠ワインナリーで工場見学・試飲・買い物を楽しんだ後は、小高い丘をバスが走ると次はぶどう狩り。甘い果物は別腹で、ぶどうだけではなく、リンゴやプラム・桃なども味わうことが出来ました。一日目の日程はこれで

終了、お腹一杯になり上山温泉「古窯」へ到着。なんと露天風呂付きの広々とした部屋で、ゆつくりと過ごすことができました。一休みした後には、醍醐味の宴会。豪華な料理と少しのビール・カラオケも楽しみ、あとは夜ぐつすり眠るだけでした。二日目は今年話題だった「天人」のゆかりの場所へ、上杉神社や上杉博物館をゆつくりと見学することが出来ました。

特にここ数年は、限られた条件の中で行わざるを得ない行事ですが、利用者さん達が望むのであれば出来る限り応えていかなうては、と再確認することができました。

グループ旅行男子日帰り班編



ぶどう狩りと寿司の食べ放題の旅。今評判の茨城県那珂湊の『市場寿し』で食べ放題。ネタはやはり新鮮でその大きい事。最初の思惑通り十分『元が取れた。』と思わせてくれた内容でした。おかげ様で次の目的地の『ぶどう狩り』は食べ放題では採算が取れないとの判断からグラム当たりの値段で交渉して食べましたがこれも十分な量と味で大満足。日帰りで急ぎ足でしたが腹は満腹で何の不満ありませんでした。

知的障害者通勤寮 はまゆう通勤寮

はまゆう通勤寮は、今年三月末にそれまで入寮していた寮生が全員地域移行を果たし、四月に新たに男性七名、女性八名の計十五名が新たに入寮しスタートしました。今回入寮した十五名全員は、はまなす荘を三月に退所した方で、地域移行を目標としています。

通勤寮は地域社会での自立生活を目指す人が入所し、地域で生活する為に大切なこと、必要なことを共同生活や就労を通じ勉強する所です。その為「就労すること」「自分のことは自分ですること」「ここは勉強の場であり、通過点であること」を支援の大きな柱としています。

「就労」は通勤寮支援の特徴でもあります。地域で生活するにはお金が掛かります。そのお金を自分で働いて得るといふ目標があります。十五名の寮生全員も入寮と共に福祉サービスマスターがやきやきに就労しました。とは言え、入寮当初は起床から出勤準備に至るまで声掛けを必要とし、何とか送り出しているという状況で、お世辞にも就労しているとは言えない状況でした。

「自分のことは自分でする」という点では、掃除や洗濯など身の回りのことだけでなく、小遣い計算などのやり方を教え、自分で出来ることを増やしていきけるよう支援を行っています。

「訓練の場であり、通過点である」というのは厳しい言葉のように感じられるかもしれませんが、しかし寮生



花見

の目標は地域で、グループホーム等で生活することです。目標達成するために「何が 필요한のか、何をしなければならぬのか」を寮生自身が考え行動できるよう支援を続けていきたいと考えています。

入寮して半年が過ぎ、通勤寮での生活リズムにも慣れ、寮生の生活リズムの中に「仕事に行く」という意識が芽生えてきたようです。初めて給料を貰ったときには、寮生全員が大喜びでした。まだまだ「就労」とは言えない部分もありますが、就労先であるかがやきからの寮生の対応依頼の電話の本数は少なくなってきたように思います。掃除や洗濯、小遣い計算等においても「自分でやる」という意識が出てきたようです。今後も寮生自身が「自分で出来る」という喜びを知り、自分でやろうとする意欲を持って生活し、その結果地域社会で生活するという目標を達成できるように支援を継続していきたいと考えています。

障害者総合生活支援センター ふくいん

「ふくいん」にはいわき障害者就業・生活支援センター、相談支援事業所ふくいん、グループホーム・ケアホームバックアップ事業所、ホームヘルプステーションシャロームの四事業所があり、本人さん主体の支援を心がけながら地域生活の支援を行っています。

今回はその四事業所の中からグループホーム・ケアホームバックアップ事業とホームヘルプステーションシャロームの活動を報告します。

グループホーム・ケアホーム事業

グループホーム・ケアホーム事業所にとって、この上半期は変化が多く充実したものととなりました。

四月から九月まで一つのホームを廃止し、七つのホームを立ち上げ、現在は二十八



ホームと四月から仲間入りした古館福祉ホームを合わせて、百五十一名の生活の支援をさせていただきます。六月には、センターの近くにサブ



センターを設け、より手厚い支援を目指しています。そのためにも、下半期は、ホームの立ち上げを少しお休みし、入居者の方々に『地域に出てきてよかった♡』と想っていただけできるようにくくりと確実に関わっていきたいと思います。

ホームヘルプステーション シャローム

ホームヘルプステーションシャロームは、地域の方々の生活をサポートする担い手として活動しています。障害者自立支援法・介護保険法の中で身体介護や家事援助・移動支援等、利用者さん一人一人に合った支援が出来る様、日々、制度を学びながら活動しています。その一環として、月に一度ヘルパー研修会を実施



現場で経験した事や学んだ事などの実例を出し合いさらに外部研修での情報など、それらを全員で共有する事で、利用者さんに質の良いサービスを安定して提供できるようにする事が目的です。これらを実践しながら、在宅生活を充実させる為のサポートの一端として利用者本位の支援ができるよう、職員一丸となって頑張っています。

福祉サービス事業所 つばさ

就労継続A型事業

平成十八年三月に身体障害者小規模通所授産施設ひかりとして、平新川町において宅配弁当の製造販売「ひかり弁当」をオープンしました。同年十月障害者自立支援法により就労継続A型事業として利用者定員十名で、平、内郷、湯本、その他地区のお客様に宅配弁当を提供してまいりました。おかげさまで、現在は、主力のひかり弁当だけでなく、市内の高齢者のデイサービス事業所等の昼食の提供等も行っております。販売拡大に伴い利用者の作業効率もあがってきており、日々向上心を持ち、働く喜びを持って頑張っています。



また、かねてより、法人内の施設給食業務について、当事業所で請け負う計画を進めてまいりました。そして、はまぎく荘、はまなす荘、はまゆう通所寮の三施設の給食業務について業務委託契約を締結し、今年四月より正式に業務を実施しております。現在、調理員八名と調理補助員(A型事業利用者)六名の交代勤務によりその業務を行い、三施設の朝、昼、夕食の三食を提供しております。また、古館福祉ホームには食料を届けております。



今後、現在行っている宅配弁当及び給食業務において、安全でおいしい食事を常に提供出来るように、職員、利用者ともども努力してまいりますので、どうか今後とも、ご愛顧のほどよろしくお願い致します。

保育所 小島保育園

小島保育園の特色の一つに「福音の日」があります。

法人の基本理念を受けて、小島保育園の基本理念も「聖書の信仰に基づいて保育を行う」としています。その実践として、毎月一回、法人理事の黒田牧師を招いて「福音の日」を行っています。

四・五歳児が通年を通して、三歳児も年度後半より参加いたします。三十分から四十分のお話ですが、毎回子どもたちは、黒田牧師のお話を楽しみにしています。

時季に合った話題で、子供たちの大好きなキャラクターなども時には登場し、あつと驚く手品を交えながら、聖書のお話を子供たちにわかりやすくしてくださいませ。

毎日一緒に生活している保育士が、「お友達と仲良くしよう」と何回も話すより、「福音の日」に黒田牧師が、「お友達と仲良くしよう」とお話してくださいませ。うが、子どもたちの心に響くようです。

もう一つは、「英語教室」です。市内の幼児英会話教室に委託し



て、毎月一回、外国人と日本人の先生に来ていただき、四・五歳児が各三十分ずつ授業を受けます。異文化に触れることを目的に始めましたが、子どもたちの反応の良さには、職員も驚いています。

ご利用いただいている保護者の方のお話では、スーパードなどで、見ず知らずの外国人の方を見かけた時、自分たち親は、できるだけ声を掛けないうでと視線をはずす中、「ハロー」と気軽に声を掛ける我が子を見て、「英語教室」のおかげかなと話してくださいませ。



この二つの行事は、毎日、単調な園生活の中、時々職員以外の人たちと触れ合い、刺激されることによつて、子どもたちにとつて園生活が、より意味のある繰り返しになり、一人ひとりの成長を促す環境になる大切な行事だと考えます。

来年度の入園申請の時季になりました。園の特色を利用者・地域の皆様にご理解いただき、地域の子育て支援の拠点としての役割も果たしながら運営してまいります。

財団法人JKA公益事業振興補助事業完了のお知らせ



この度平成21年度競輪公益事業補助金の交付を受けて、古館福祉ホームの送迎用車両整備事業が完了しました。この車両を活用し通院等の送迎等緊急時の対応がスムーズになることと社会参加のさらなる助長を図ることが期待できます。財団法人JKA様をはじめご協力を賜りました関係者の皆様に謹んで感謝の意を表します。

作業用車両整備事業完了のお知らせ

福島県共同募金会の共同募金配分金助成を受けて、福祉サービス事業所つばさの作業用車両整備をすることが出来ました。車両導入により作業を行うため利用者に乗せ、又、荷物や作業道具を積み込み効率的に移動することが出来、利便性、時間短縮と成果が上がっております。事業完了の報告と共に福島県共同募金会様はじめご協力を賜りました関係者の皆様に謹んで感謝の意を表します。



平成20年度(2008年) 事業報告

1. 平成20年度の標語

『目にみえるものではなく
見えないものに目を注ぐ』
—コリント人への第二の手紙 4章18節—

2. 事業の開始及び廃止

(1) 廃止となった事業

- イ. 就労継続支援B型事業所 つばさ
平成20年12月31日
- ロ. 自立訓練事業所 つばさ
平成21年3月31日

(2) 事業所の開設

- イ. 事業の種類：就労継続支援B型事業所
事業所名：かがやき 平成21年1月1日
住 所：いわき市好間町下好間
字大館 173-1
- ロ. 事業の種類：共同生活援助(介護)事業所
- A. 白土ホーム 平成20年6月1日
利用定員：4名
- B. 下平IIホーム 平成21年3月11日
利用定員：4名
- C. 草野ホーム 平成21年3月11日
利用定員：4名

(3) 事業所の移転

- イ. 障害者総合生活支援センターふくいん、
いわき障害者就業・生活支援センター及び
相談支援事業所ふくいん
新住所：いわき市平字堂ノ前2
- ロ. ホームヘルプステーションシャローム及び
居宅介護支援事業所シャローム
新住所：いわき市平字堂ノ前2

3. その他の事業

- (1) 視覚障害者向けIT講習会
いわき市の委託を受け実施
- (2) ジョブコーチ(職場適応援助者)による
支援事業
福島県障害者職業センターの委託を受け実施

(3) 障がい者委託訓練事業(パソコン事務科)

福島県立浜高等技術専門校の委託を受け実施

(4) 障がい者工賃向上支援事業(第1号職場適応援助者養成研修会)

福島県の委託を受け実施

4. 民間資金補助金等による事業

- (1) 第31回24時間テレビ福祉車両寄贈事業
助成団体：24時間テレビチャリティ委員会
事業内容：リフト付バス(定員10名)
- (2) 日本財団助成事業
助成団体：(財)日本船舶振興会
事業名：軽トラック整備事業
- (3) 共同募金による平成20年度配分金
配分者：福島県共同募金会
事業名：小島保育園遊戯室改修工事
- (4) 平成20年度障害者自立支援対策臨時特例基金
- A. 事業名：はまぎく荘女子居住棟脱衣室・浴室改修工事
- B. 事業名：福祉サービス事業所かがやき改修工事
- C. 事業名：はまなす荘園芸用ハウス設置工事
- (5) 障害者就労訓練設備等整備事業
- A. 事業名：ダブルキャブトラック等の整備
- B. 事業名：業務用洗濯機・乾燥機の整備
- (6) 福祉巡回車寄贈事業
助成団体：(社団)生命保険ファイナンシャルアドバイザー協会

5. 研修会の実施

- (1) 新採用職員研修会
理事長、理事、施設長等を講師として実施
- (2) 演題：社会福祉の実践
講師：神奈川県立保健福祉大学 河 幹夫 氏
- (3) 演題：精神医学を知る～施設における精神医学
講師：磐城済生会舞子浜病院 田子久夫 氏

平成20年度社会福祉法人いわき福音協会財務報告

○貸借対照表【一般会計】

科目	合計額	本部会計	借													
			療護園(肢体)	療護園(重心)	野の花ホーム	はまなす荘	はまぎく荘	はまぎく運動寮	古館福祉ホーム	グループホーム	小島保育園	シャローム(支援)	シャローム(介護)	光の家(生活介護)	つばさ(自立)	ふくいん(相談)
流動資産	412,602	35,320	61,128	29,474	52,085	113,510	42,161	6,952	3,622	27,660	14,758	4,714	968	15,077	4,133	1,040
固定資産	2,729,187	181,145	722,557	504,213	448,947	170,804	257,032	84,979	53,656	13,212	109,326	2,781	319	177,237	1,021	1,958
資産合計	3,141,789	216,465	783,685	533,687	501,032	284,314	299,193	91,931	57,278	40,872	124,084	7,495	1,287	192,314	5,154	2,998

(単位：千円)

科目	合計額	本部会計	貸													
			療護園(肢体)	療護園(重心)	野の花ホーム	はまなす荘	はまぎく荘	はまぎく運動寮	古館福祉ホーム	グループホーム	小島保育園	シャローム(支援)	シャローム(介護)	光の家(生活介護)	つばさ(自立)	ふくいん(相談)
流動負債	156,156	15,776	29,041	13,434	8,622	37,346	9,778	1,359	363	16,022	3,749	3,030	791	12,354	4,133	358
固定負債	221,768	5,769	49,277	48,782	27,724	22,680	16,119	5,573	2,100	8,537	14,404	619	319	18,514	409	942
基金	883,087	78,433	87,059	166,438	138,810	32,773	146,718	81,819	56,855	2,530	57,785	0	0	33,251	616	0
国庫補助金等特別積立金	671,377	211	158,088	64,052	191,418	24,065	69,508	16,654	15,392	0	14,667	0	0	117,322	0	0
その他の積立金	896,154	100,663	263,350	244,800	105,091	98,219	40,518	730	200	850	41,733	0	0	0	0	0
次期繰越活動収支差額	313,247	15,613	196,870	△3,819	29,367	69,231	16,552	△14,204	△17,632	12,934	△8,254	3,846	177	10,873	△5	1,698
負債・純資産合計	3,141,789	216,465	783,685	533,687	501,032	284,314	299,193	91,931	57,278	40,873	124,084	7,495	1,287	192,314	5,153	2,998

○貸借対照表【就労支援会計】

(単位：千円)

科目	合計額	借			
		カナン村	つばさ(移行)	つばさ(A)	つばさ(B)
流動資産	48,041	21,790	6,994	12,806	6,451
固定資産	214,389	200,245	2,560	9,337	2,247
資産合計	262,430	222,035	9,554	22,143	8,698

○貸借対照表【公益事業会計】

(単位：千円)

科目	合計額	借		
		就業生活支援	居宅シャローム	シャローム(介護)
流動資産	16,820	16,296	524	0
固定資産	3,152	2,068	1,084	0
資産合計	19,972	18,364	1,608	0

○貸借対照表【収益事業会計】

(単位：千円)

科目	合計額	借	
		カナン村	つばさ(移行)
流動負債	19,433	5,390	1,257
固定負債	25,585	20,613	1,709
基金	63,110	63,110	0
国庫補助金等特別積立金	96,260	92,572	578
その他の積立金	40,438	40,438	0
次期繰越活動収支差額	17,604	△88	6,010
負債・純資産合計	262,430	222,035	9,554

○事業活動収支内訳表【一般会計】

科 目	合 計	本部会計	療護園 (肢体)	療護園 (重心)	野の花 ホーム	はまむす 荘	はまぎく 荘	はまゆう 運動寮	古館福祉 ホーム	グループ ホーム	小鳥 保育園	シャローム (支援)	シャローム (介護)	光の家 (生活介護)	つばさ (自立)	ふくいん (相談)
事業活動収入計(1)	2,228,479	6,387	561,568	458,694	260,560	325,862	192,683	34,495	9,420	136,571	121,650	28,009	3,353	64,485	14,022	10,720
事業活動支出計(2)	2,131,557	41,655	536,376	437,281	242,491	268,325	180,022	38,740	9,718	134,090	115,734	27,964	3,838	71,629	13,160	10,534
事業活動収支差額(3) = (1) - (2)	96,922	△ 33,268	25,192	21,413	18,069	57,537	12,661	△ 4,245	△ 298	2,481	5,916	45	△ 485	△ 7,144	862	186
事業活動外収入計(4)	91,915	73,036	3,366	909	1,872	205	94	263	153	3,511	200	3	600	7,695	4	4
事業活動外支出計(5)	106,943	34,619	23,200	7,000	7,842	8,506	3,144	14,000	145	0	2,500	322	0	465	5,200	0
事業活動外収支差額(6) = (4) - (5)	△ 15,028	38,417	△ 19,834	△ 6,091	△ 5,970	△ 8,301	△ 3,050	△ 13,737	8	3,511	△ 2,300	△ 319	600	7,230	△ 5,196	4
経常経費収支差額(7) = (3) + (6)	81,894	3,149	5,358	15,322	12,099	49,236	9,611	△ 17,982	△ 290	5,992	3,616	△ 274	115	86	△ 4,334	190
特別収入計(8)	4,748	0	0	437	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3,500	0	811
特別支出計(9)	26,372	93	632	258	339	21,974	3,076	0	0	0	0	0	0	0	0	0
特別収支差額(10) = (8) - (9)	△ 21,624	△ 93	△ 632	179	△ 339	△ 21,974	△ 3,076	0	0	0	0	0	0	3,500	0	811
当期活動収支差額(11) = (7) + (10)	60,270	3,056	4,726	15,501	11,760	27,262	6,535	△ 17,982	△ 290	5,992	3,616	△ 274	115	3,586	△ 4,334	1,001
前期繰越活動収支差額(12)	328,516	15,558	207,643	△ 820	29,706	62,969	21,217	△ 4,595	△ 17,342	6,943	△ 9,257	4,121	61	7,288	4,328	696
当期末繰越活動収支差額(13) = (11) + (12)	388,786	18,614	212,369	14,681	41,466	90,231	27,752	△ 22,577	△ 17,632	12,935	△ 5,641	3,847	176	10,874	△ 6	1,697
その他の積立金取崩額(14)	10,327	0	0	0	0	0	0	8,373	0	0	1,954	0	0	0	0	0
その他の積立金積立額(15)	83,866	3,000	15,500	18,500	12,100	21,000	11,200	0	0	0	4,566	0	0	0	0	0
次期繰越活動収支差額(16) = (13) + (14) - (15)	313,247	15,614	196,869	△ 3,819	29,366	69,231	16,552	△ 14,204	△ 17,632	12,935	△ 8,253	3,847	176	10,874	△ 6	1,697

(単位：千円)

○資金収支内訳表【一般会計】

科 目	合 計	本部会計	療護園 (肢体)	療護園 (重心)	野の花 ホーム	はまむす 荘	はまぎく 荘	はまゆう 運動寮	古館福祉 ホーム	グループ ホーム	小鳥 保育園	シャローム (支援)	シャローム (介護)	光の家 (生活介護)	つばさ (自立)	ふくいん (相談)
経常収入計(1)	2,271,735	79,423	550,822	453,766	254,590	324,020	184,435	32,783	8,607	140,082	118,567	28,011	3,954	67,925	14,026	10,724
経常支出計(2)	2,132,751	71,156	531,248	429,858	236,238	269,178	170,937	48,737	7,245	132,028	112,825	27,213	3,781	64,177	17,875	10,255
経常活動資金収支差額(3) = (1) - (2)	138,984	8,267	19,574	23,908	18,352	54,842	13,498	△ 15,954	1,362	8,054	5,742	798	173	3,748	△ 3,849	469
施設整備等収入計(4)	4,749	0	0	437	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3,500	0	812
施設整備等支出計(5)	50,967	113	4,993	4,140	2,793	24,684	2,590	446	0	1,440	3,853	0	0	4,991	0	924
施設整備等資金収支差額(6) = (4) - (5)	△ 46,218	△ 113	△ 4,993	△ 3,703	△ 2,793	△ 24,684	△ 2,590	△ 446	0	△ 1,440	△ 3,853	0	0	△ 1,491	0	△ 112
財務収入計(7)	28,021	0	4,788	4,513	1,713	1,089	3,430	8,372	0	0	4,070	0	0	46	0	0
財務支出計(8)	109,876	3,391	20,963	22,782	16,188	23,415	12,693	280	1,050	756	5,808	115	57	2,135	109	134
財務活動資金収支差額(9) = (7) - (8)	△ 81,855	△ 3,391	△ 16,175	△ 18,269	△ 14,475	△ 22,326	△ 9,263	8,092	△ 1,050	△ 756	△ 1,738	△ 115	△ 57	△ 2,089	△ 109	△ 134
当期資金収支差額(10) = (3) + (6) + (9)	10,911	4,763	△ 1,594	1,936	1,084	7,832	1,645	△ 8,308	312	5,835	151	683	116	168	△ 3,958	223
前期末支払資金残高(11)	245,535	14,781	33,681	14,105	42,378	68,331	30,738	13,900	2,948	5,781	10,858	1,001	61	2,555	3,958	459
当期末支払資金残高(10) + (11)	256,446	19,544	32,087	16,041	43,462	76,163	32,383	5,592	3,260	11,639	11,009	1,684	177	2,723	0	682

(単位：千円)

平成20年度社会福祉法人いわき福音協会財務報告

○貸借対照表【一般会計】

科目	合計額	本部会計	借													
			療護園(肢体)	療護園(重心)	野の花ホーム	はまなす荘	はまぎく荘	はまぎく運動寮	古館福祉ホーム	グループホーム	小島保育園	シャローム(支援)	シャローム(介護)	光の家(生活介護)	つばさ(自立)	ふくいん(相談)
流動資産	412,602	35,320	61,128	29,474	52,085	113,510	42,161	6,952	3,622	27,660	14,758	4,714	968	15,077	4,133	1,040
固定資産	2,729,187	181,145	722,557	504,213	448,947	170,804	257,032	84,979	53,656	13,212	109,326	2,781	319	177,237	1,021	1,958
資産合計	3,141,789	216,465	783,685	533,687	501,032	284,314	299,193	91,931	57,278	40,872	124,084	7,495	1,287	192,314	5,154	2,998

(単位：千円)

科目	合計額	本部会計	貸													
			療護園(肢体)	療護園(重心)	野の花ホーム	はまなす荘	はまぎく荘	はまぎく運動寮	古館福祉ホーム	グループホーム	小島保育園	シャローム(支援)	シャローム(介護)	光の家(生活介護)	つばさ(自立)	ふくいん(相談)
流動負債	156,156	15,776	29,041	13,434	8,622	37,346	9,778	1,359	363	16,022	3,749	3,030	791	12,354	4,133	358
固定負債	221,768	5,769	49,277	48,782	27,724	22,680	16,119	5,573	2,100	8,537	14,404	619	319	18,514	409	942
基金	883,087	78,433	87,059	166,438	138,810	32,773	146,718	81,819	56,855	2,530	57,785	0	0	33,251	616	0
国庫補助金等特別積立金	671,377	211	158,088	64,052	191,418	24,065	69,508	16,654	15,392	0	14,667	0	0	117,322	0	0
その他の積立金	896,154	100,663	263,350	244,800	105,091	98,219	40,518	730	200	850	41,733	0	0	0	0	0
次期繰越活動収支差額	313,247	15,613	196,870	△3,819	29,367	69,231	16,552	△14,204	△17,632	12,934	△8,254	3,846	177	10,873	△5	1,698
負債・純資産合計	3,141,789	216,465	783,685	533,687	501,032	284,314	299,193	91,931	57,278	40,873	124,084	7,495	1,287	192,314	5,153	2,998

○貸借対照表【就労支援会計】

(単位：千円)

科目	合計額	借			
		カナン村	つばさ(移行)	つばさ(A)	つばさ(B)
流動資産	48,041	21,790	6,994	12,806	6,451
固定資産	214,389	200,245	2,560	9,337	2,247
資産合計	262,430	222,035	9,554	22,143	8,698

○貸借対照表【公益事業会計】

(単位：千円)

科目	合計額	借		
		就業生活支援	居宅シャローム	金額
流動資産	16,820	16,296	524	719
固定資産	3,152	2,068	1,084	0
資産合計	19,972	18,364	1,608	719

○貸借対照表【収益事業会計】

(単位：千円)

科目	合計額	借	
		カナン村	つばさ(移行)
流動負債	19,433	5,390	1,257
固定負債	25,585	20,613	1,709
基金	63,110	63,110	0
国庫補助金等特別積立金	96,260	92,572	578
その他の積立金	40,438	40,438	0
次期繰越活動収支差額	17,604	△88	6,010
負債・純資産合計	262,430	222,035	9,554